

2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)

大阪ヘルスケアパビリオン  
ユニバーサルデザインの取組記録



Osaka  
Healthcare  
Pavilion  
Nest for Reborn

## 目次

はじめに

<b>1 ユニバーサルデザインの実践の全体概要</b>	<b>5</b>
1.1 目的・経緯	
1.2 体制〈UD推進チームのメンバー構成〉	
1.3 全体の流れ	
1.4 大阪ヘルスケアパビリオンの建築と展示の概要	
<b>2 個別の実践の内容</b>	<b>15</b>
2.1 当事者ヒアリングと実践方針の確認	17
2.2 みんなトイレ	21
2.3 カームダウン・クールダウンルーム	34
2.4 館内の移動、災害時の避難計画	39
2.5 展示	43
2.6 視覚情報の対応(ナビレンスの活用等)	49
2.7 事前情報提供	53
2.8 アテンダント研修	57
2.9 会期中の調査、発信	60
2.10 会期後の検証、発信	64
<b>3 ワークショップの実践手順 ～進め方がユニバーサルに至った工夫～</b>	<b>65</b>
3.1 ワークショップの実践検討	
3.2 日程調整、配慮事項等の把握	
3.3 当事者の参加に要する経費(報酬費や交通費)	
3.4 参加者が理解しやすい配慮のある資料作成	
3.5 会場までの案内	
3.6 当日の進行、説明	
3.7 ワークショップ後のまとめや対応	
<b>4 当事者参画の先導となる成果(レガシー)</b>	<b>73</b>
4.1 参画プロセスのユニバーサル化 ～対等で主体的な参加を可能にする場の設計～	
4.2 「小さな声」の主体化 ～参加主体の拡張～	
4.3 設計から運営まで連続した共創の実践 ～ハードとソフトをつなぐ当事者参画～	
4.4 総括	

5 振り返り(UD推進チームメンバー)	79
5.1 お困りごと当事者	
5.2 作り手企業	
5.3 業務受託者	
5.4 事務局	
おわりに	93

## 【巻末資料】ワークショップ開催概要(全16回)

【資料編】 \*以下の内容は、大阪府ホームページに掲載しています。

- 1 ワークショップ資料(全16回)
- 2 アンケート等調査内容
  - 2.1 UD全体アンケート
  - 2.2 UDひろばのたまご形カードへの記載
  - 2.3 みんなトイレ
    - 2.3.1 みんなトイレアンケート
    - 2.3.2 みんなトイレ人流調査
    - 2.3.3 みんなトイレ利用回数調査
    - 2.3.4 みんなトイレ扉開閉ログ
  - 2.4 カームダウン・クールダウンルーム利用実績
  - 2.5 ナビレンス
  - 2.6 対話調査

## はじめに

この記録誌は、「2025年大阪・関西万博 出展参加基本構想(令和3年3月)」「(大阪府・大阪市)を受けて策定された「2025年日本国際博覧会 大阪パビリオン出展基本計画(2022年3月)」「(2025年日本国際博覧会大阪パビリオン推進委員会)を踏まえ、ユニバーサルデザインの実現に向けた2022年3月から2026年3月までの約4年間の取組みを記録したものです。

大阪ヘルスケアパビリオンでは、エキスパート(ユニバーサルデザイン)石塚裕子氏のもと、さまざまなお困りごとを抱える22人の当事者や作り手企業が参画、大阪ヘルスケアパビリオンUD推進チーム(以下、「UD推進チーム」という。)として団結し、建築基本設計着手の段階から、運営、万博閉幕後の発信に至るまで、ユニバーサルデザインへの考え方や発想を変える取組みにチャレンジしました。

この記録誌の編集にあたっては、今後のユニバーサルデザインに関する研究や、当事者参画による施設整備や運営の参考として活用していただき、大阪ヘルスケアパビリオンのユニバーサルデザインの取組みが万博のレガシーとして継承されるよう、当事者参画によるワークショップの開催の工夫や、当事者の声がどのように活かされたか等がわかるように、可能な限り詳細に経過や資料を掲載しました。

# 1 ユニバーサルデザインの実施の全体概要



## 1.1 目的・経緯

大阪ヘルスケアパビリオンでは出展にあたり、SDGsがめざす「誰一人取り残さない」社会を実現していくため、誰もが心身豊かで快適に暮らしやすい未来社会の新しい価値・モデルを創造し、発信することを方針とした。

その方針のもと、ユニバーサルデザインの取組みについては、2022年1月にエキスパートとして石塚裕子氏を迎え、訪れるすべての方々が楽しめるパビリオンの実現と、ユニバーサルデザインへの考え方や発想を変える取組みにチャレンジすることとし、設計着手時の案づくりの段階から、建築だけでなく、展示や会期中の運営、万博閉幕後の発信に至るまでを取組みの対象とし、さまざまなお困りごとを抱える当事者（以下、「当事者」という。）の参画により進めることとした。

取組みは、2022年3月、建築基本設計を進めるための当事者に対するヒアリングからスタートした。以降、「取組み・進め方自体がユニバーサルデザイン」という共通認識のもと、「みんな一緒に」「対話により『成解』を見つける」という視点を大切にして、2026年3月の最終ワークショップまで計16回のワークショップを開催した。

## 1.2 体制〈UD推進チームのメンバー構成〉

2022年1月にユニバーサルデザインのエキスパートを石塚裕子氏に委嘱、当事者メンバーの選任にあたってはエキスパートに相談し、博覧会協会のユニバーサルデザイン検討会等のメンバーから選任した。加えて、これまで声が届きにくかった精神障がい者や知的障がい者、発達障がい者、LGBTQ+、医療的ケア児、子育て世帯のメンバーを選任し、2022年3月から取組みを進めた。

約1年の取組みを通じて「取組み・進め方自体がユニバーサルデザイン」という共通認識を得て、2023年3月29日のワークショップにおいて、作り手企業及び建築・展示・運営の業務受託者とともにUD推進チームとして発足、団結した。

**エキスパート：**事務局やメンバーへの専門的なアドバイス等により、ユニバーサルデザインの取組みを推進する。

**お困りごと当事者：**ワークショップ等に参加し、建築・展示・運営の設計や実施計画を一緒に考える。

メンバーは、車いす使用者、視覚障がい者、聴覚障がい者、精神障がい者、知的障がい者、発達障がい者、LGBTQ+、医療的ケア児、子育て世帯の22名(うち4名は親と参加)

**作り手企業：**作り手としてワークショップ等に参加し、当事者のアイデア等を踏まえ、建築・展示・運営の設計や実施計画づくりを進める。なお、今回はみんなトイレの設計や設備を協賛した3社が参画した。

**業務受託者：**建築・展示・運営の業務受託者として、ワークショップの資料や実物大模型の準備をして参加し、当事者のアイデア等を踏まえ、建築・展示・運営を実行する。

**事務局：**主催者としてワークショップの企画や準備、進行等を担い、ユニバーサルデザインの取組みを進める。

## UD推進チームメンバー

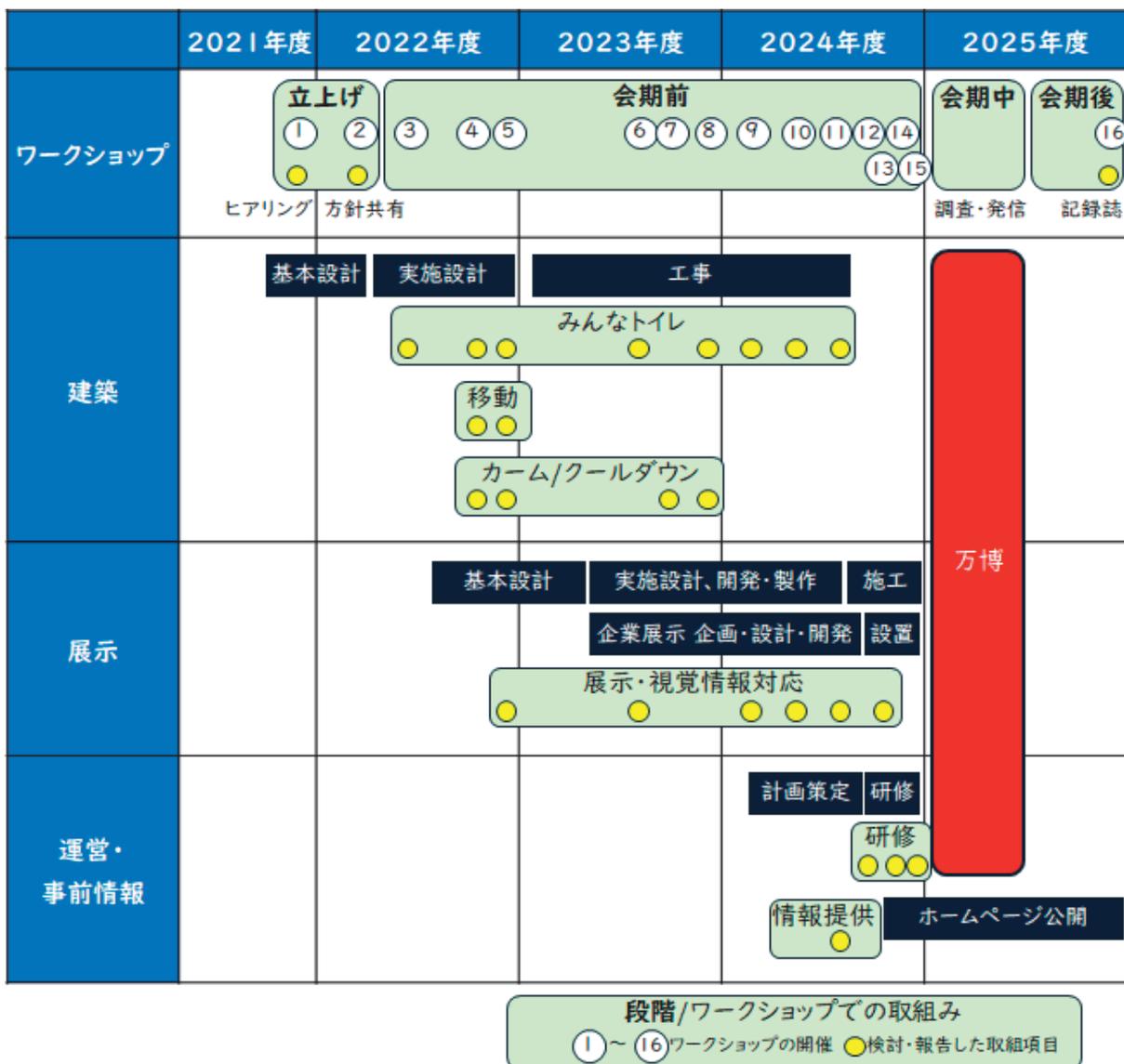
<b>エキスパート</b>	石塚 裕子（東北福祉大学教授、2023年3月まで大阪大学大学院人間科学研究科講師）
<b>お困りごと当事者</b>	伊良原 淳也
	植木 智
	海老澤 弥生
	岡田 多栄子
	尾上 浩二
	岸本 慶子
	小尾 隆一
	神徳 佳子
	鈴木 千春
	田中 世生・美紀(親)
	西村 秀樹
	橋口 亜希子
	濱崎 はるか
	原 弘幸
	堀 篤子
	前野 奨
	森本 琉久・純子(親)
	吉川 ひとみ
	吉川 竜三・和信(親)
	吉田 豊・琴美(親)
六條 友聡	
渡部 安世	
<b>作り手企業</b> (みんなトイレに協賛した企業)	株式会社サイエンス
	株式会社シブタニ
	TOTO株式会社
<b>建築・展示・運営の 業務受託者</b>	株式会社アクセスムーブコンフォート
	株式会社竹中工務店
	株式会社東畑建築事務所
	乃村工藝社・三菱UFJリサーチ&コンサルティング共同企業体
<b>事務局</b>	公益社団法人2025年日本国際博覧会大阪パビリオン

### 1.3 全体の流れ

大阪ヘルスケアパビリオンにおけるユニバーサルデザインの取組みは、その内容から「立上げ」「会期前」「会期中」「会期後」の4つの段階に分けられる。

立上げでは、検討メンバーを選定のうねヒアリングを実施し、取組方針を共有した。会期前は、建築、展示、運営・事前情報について、設計や計画、施工等に検討内容が反映できるように順次適切なタイミングでワークショップを開催し取組みを進めた。会期中は、会期前に想定し実施した工夫やチャレンジが、実際にお困りごとに対応できていたか等を調査するとともに、ユニバーサルデザインの取組みを発信した。会期後は、取組みを検証し、反省も含め万博のレガシーとして活用されるよう記録誌としてとりまとめた。約4年間、この4つの段階でワークショップを16回開催、またワークショップの前後にはメールでの意見聴取や検討結果の共有、個別の説明やヒアリング等きめ細やかに取組みを進めた。

ユニバーサルデザインのワークショップでの取組スケジュール



## 立上げ(当事者ヒアリングと取組方針の確認)

2022年3月、建築基本設計を進めるため、「来館者の移動」「トイレ」「カームダウン・クールダウン」をテーマに、計5回のヒアリングを実施した。ヒアリング時には、展示や運営はあらためてヒアリング等を行うことを伝えたが、建築に限らず幅広く多くの意見があり、それらの意見をまとめた結果、運営担当がいない段階から、建築だけでなく、誰もが楽しめる展示や運営、会期中の検証から会期後の発信まで一貫して取り組むことを方針として確認した。

## 会期前(訪れるすべての方々が楽しめるパビリオンの実現に向けた取組み)

専門家が作成した素案に対して当事者が意見や要望を伝えるといったこれまでの手法ではなく、当事者とともに作り手も一緒にワークショップに参加してお困りごとを共有し、正解のない課題に対して建設的に質問や提案等の対話を進め、「成解」を一緒に考えた。配慮が必要な方や欠席者には事前説明や事後説明をし、議題に深く関係する当事者への個別の聞き取りも含め、共に創る過程を大切にしながら進めた。また、運営を担当する事務局及び業務受託者もハードの検討段階からワークショップに参加したことから、建築・展示の内容を運営や情報発信に円滑に引き継ぐことができた。

**建築** みんなトイレ、カームダウン・クールダウンルーム、移動(避難含む)について基本設計段階から検討を重ねた。みんなトイレは、専門家が作成したプランに対して当事者が意見や要望を伝えるのではなく、当事者が主体的に案づくりに参加し、作り手と対等な関係でお困りごとを共有しながら一緒に「成解」を考える進め方により、「みんなが自由に選んで自然に使える、既成概念を変えるトイレ」の実現にチャレンジした。

**展示** 「リボン体験」の主要な展示造作である「カラダ測定ポッド」等の実物大モックアップを用いて、使いやすさや見やすさを確認した。

**運営・事前情報** アテンダント研修の内容を検討し、座学研修は当事者とアテンダントとの対話形式で実施し、現地研修は当事者が来館者役となりアテンダントが案内する形式で実施した。事前情報では、当事者が安心して来館するために事前に知りたい情報やわかりやすいホームページについて意見交換し、その内容をホームページに反映した。

## 会期中(調査、発信)

ワークショップで考えたことが実際にどのように使われたか、お困りごとに対応できていたかを確認するため、現地調査やアンケートを実施するとともに、ユニバーサルデザイン関係者の視察や調査を受け入れた。その際の意見や運営での「気づき」に対してはできる限り対策を講じた。

8月には、来館者がユニバーサルデザインを考え、意識を変えるきっかけとなるよう、アトリウムにUDひろばをオープンし、取組紹介やカードへ記入してもらおう参加型の展示を実施した。

## 会期後(検証、発信)

UD推進チームの取組みをレガシーとして広く発信し、当事者参画やユニバーサルデザインの実現が進むよう、各所の事例集への掲載や記録誌の作成に取り組んだ。



展示ゾーンは、「REBORN」から「卵」をイメージした楕円形の平面が有機的に重なり合う構成とし、勾配1/20のゆるやかなスロープでつなぎ、誰もが同じルートで展示を体験できる動線計画とした。

展示は「リボーン体験ルート」をメイン体験とし、中小企業・スタートアップが週替わりで出展する「リボーンチャレンジ」、協賛企業によるおいしく健康的な食等を提供する「ミライの食と文化」、iPS細胞から作製した心筋シートや1970年の大阪万博からの技術発展の象徴として開発されたミライ人間洗濯機を展示した「アトリウム」、ミライのエンターテインメントを体験できる「XD HALL」で構成した。



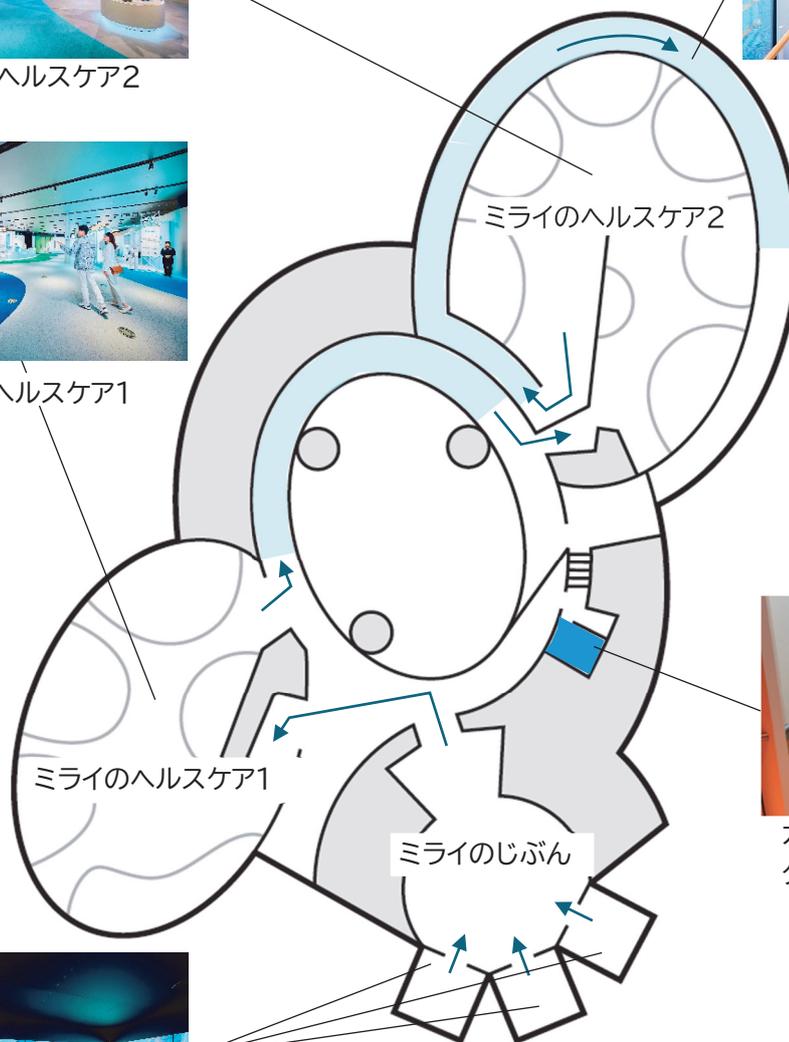
ミライのヘルスケア2



ヒカリの坂道(1階へ)



ミライのヘルスケア1



カームダウン・  
クールダウンルーム



ミライのライド(1階から)

2階平面図



## 2 個別の取組みの内容



この章では、ユニバーサルデザインの個別の取組みについて、「当事者ヒアリングと取組方針の確認」から「会期後の検証、発信」までの10項目について、延べ315人の当事者（介助者（親）を含む）が参加した全16回ワークショップでの検討内容や会期中の使われ方等を記載する。

## 2.1 当事者ヒアリングと取組方針の確認

2022年2月エキスパートに相談し、ユニバーサルデザインの取組みは、建築だけでなく展示と運営に関しても取り組むこととしたが、開幕までにパビリオンを完成させるために早急に建築設計を進める必要があったことから、まずは建築に関するヒアリングを実施することとした。

2022年3月ワークショップ（第1回）にてヒアリングを実施し、コメントを整理し取組方針等を検討、2022年6月15日ワークショップ（第2回）で取組方針を提示し共通認識を持った。

このヒアリングと取組方針に沿って、「みんな一緒」という進め方の共通認識のもと、以降適宜スケジュールや検討内容を修正しながら2026年3月2日最終ワークショップ（第16回）まで取組みを進めた。

### 2.1.1 ヒアリングの実施

2022年3月ワークショップ（第1回）にて、建築に関する「来館者の移動」「トイレ」「カームダウン・クールダウン」の3つのテーマについてヒアリングを実施した。当事者の発言の機会を確保するため、テーマ別に車いす使用者とそれ以外の方を目安に分けて下表のとおり計5回、コロナ禍のためオンラインで開催した。ヒアリングでは、建築の初期図面を用いて説明のうえ、ヒアリングを実施した。展示や運営についてはあらためてヒアリングすることとしていたが、運営や災害時の対応等多岐にわたるコメントがあった。

ヒアリング開催一覧

テーマ	日時	ヒアリング内容	参加者
移動①	2022年3月8日 10時～12時	館内の移動計画（エレベーター、スロープ等）	車いす使用者 他
トイレ①	2022年3月8日 13時半～15時半	トイレの平面計画（機能分散など）	車いす使用者 他
移動② トイレ②	2022年3月14日 10時～12時	館内の移動計画（エレベーター、スロープ等） トイレの平面計画（機能分散など）	視覚障がい者、 聴覚障がい者 他
カームダウン・ クールダウン①	2022年3月14日 13時半～15時半	カームダウン・クールダウンのための部屋、設備のあり方	知的障がい者、精神障がい者、発達障がい者 他
移動③ トイレ③ カームダウン・ クールダウン②	2022年3月25日 10時～12時	館内の移動計画（エレベーター、スロープ等） トイレの平面計画（機能分散など） カームダウン・クールダウンのあり方	3月8、14日に参加できなかった方を 中心

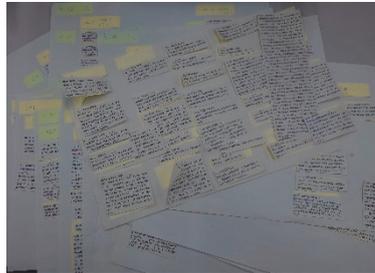
## 2.1.2 ヒアリングでのコメントとまとめ

ヒアリングでの多岐にわたったコメントは、誰もが安心して楽しめるパビリオンの実現に重要と考え、すべてのコメントを KJ 法\*を用いて整理し、大きく9項目にまとめた。

コメントのまとめを踏まえ、今後の取組方針やスケジュールを再検討し、資料を作成した。



事務局が KJ 法でまとめている様子 コメントを項目に分けて貼った資料



\*KJ 法:文化人類学者の川喜田二郎氏が考案した多様な情報を視覚的に整理し全体像を明らかにする手法

コメントをまとめた資料(項目一覧1枚、全コメント記載入り4枚)

<b>1. 方向性・進め方</b> 1-1. 方向性・進め方 ルート・移動手段 カムダウン 展示 来賓者への対応	<b>5. トイレ</b> 5-1. トイレ トイレの配置 トイレの設備 トイレの清掃
<b>2. ルート・移動手段</b> 2-1. ルート・移動手段 ルート 移動手段	<b>6. カムダウン・クールダウン</b> 6-1. カムダウン・クールダウン カムダウン クールダウン
<b>3. 展示</b> 3-1. 展示 展示の場所 展示の内容	<b>7. サイン</b> 7-1. サイン サインの配置 サインのデザイン
<b>4. 来賓者への対応</b> 4-1. 来賓者への対応 来賓者への案内 来賓者への対応	<b>8. 災害時対応</b> 8-1. 災害時対応 災害時の対応 災害時の備え
<b>9. スタッフの職場環境</b> 9-1. スタッフの職場環境 スタッフの配置 スタッフの設備	<b>9. スタッフの職場環境</b> 9-2. スタッフの職場環境 スタッフの配置 スタッフの設備

<b>1. 方向性・進め方</b> 1-1. 方向性・進め方 ルート・移動手段 カムダウン 展示 来賓者への対応
<b>2. ルート・移動手段</b> 2-1. ルート・移動手段 ルート 移動手段
<b>3. 展示</b> 3-1. 展示 展示の場所 展示の内容
<b>4. 来賓者への対応</b> 4-1. 来賓者への対応 来賓者への案内 来賓者への対応
<b>5. トイレ</b> 5-1. トイレ トイレの配置 トイレの設備 トイレの清掃
<b>6. カムダウン・クールダウン</b> 6-1. カムダウン・クールダウン カムダウン クールダウン
<b>7. サイン</b> 7-1. サイン サインの配置 サインのデザイン
<b>8. 災害時対応</b> 8-1. 災害時対応 災害時の対応 災害時の備え
<b>9. スタッフの職場環境</b> 9-1. スタッフの職場環境 スタッフの配置 スタッフの設備

<b>3. 展示</b> 3-1. 展示 展示の場所 展示の内容	<b>5. トイレ</b> 5-1. トイレ トイレの配置 トイレの設備 トイレの清掃	<b>6. カムダウン・クールダウン</b> 6-1. カムダウン・クールダウン カムダウン クールダウン
<b>4. 来賓者への対応</b> 4-1. 来賓者への対応 来賓者への案内 来賓者への対応	<b>7. サイン</b> 7-1. サイン サインの配置 サインのデザイン	<b>8. 災害時対応</b> 8-1. 災害時対応 災害時の対応 災害時の備え
<b>9. スタッフの職場環境</b> 9-1. スタッフの職場環境 スタッフの配置 スタッフの設備	<b>9. スタッフの職場環境</b> 9-2. スタッフの職場環境 スタッフの配置 スタッフの設備	<b>9. スタッフの職場環境</b> 9-3. スタッフの職場環境 スタッフの配置 スタッフの設備

主な意見と今後の方針(記載内容は次ページ)

<b>1. 方向性・進め方</b> <主なご意見> ○空間全体を統一した感じは今までなかった。2050年に向けて万博から発信を、周から検討が重要。とらえないように、モックアップしてほしい。 <今後の方針> ○関係者間の連携強化、連携しながら、モデルとなるパビリオンをめざす。 ○開催や展示の間に、可能な限りモックアップによる検証や現地確認などを行う。	<b>5. トイレ</b> <主なご意見> ○見えにくい場所や人が多く利用するよう、配置やサインの付加を。サインの配置を事前に配布してもらえると手厚くて、ありがたい。 ○便所の種類など、機能面に関して多数の意見あり。モックアップ検証。 ○便所の取扱い・掃除は様々なで整理検証を、他、設備に対して多数の意見あり。 <今後の方針> ○建築実施設計、展示設計、運営計画で検討を進める。 ○メーカー等と話し、モックアップ検証を行う。
<b>2. ルート・移動手段</b> <主なご意見> ○スロープは主線から分岐は多く、1/20勾配はいい、しんどい人もいる。 ○スロープが設置できない場所がある。 ○途中休憩できるスペースやエスケープゾーンがあるといい。 ○EV使用のルート設定はEVは大変ありがたい。 <今後の方針> ○歩行手厚の検証や休憩・待合スペースの設定は、建築実施設計で検討を進める。	<b>6. カムダウン・クールダウン</b> <主なご意見> ○各階に1ヶ所配置は必要。休憩室は別に確保。内装・設備への多数の具体的な意見。 ○事前カムダウン・クールダウンがあることに関し、実施前に予習しておきたい。 <今後の方針> ○内装・上・設備、備品、休憩・待合スペースなど、建築実施設計で検討を進める。 ○歩行手厚の対応やスタッフの付き添いなど、運営計画で検討を進める。
<b>3. 展示</b> <主なご意見> ○モビリティは車のまま、またグループで楽しめるようにしてほしい。 ○大人だけでなく子供も楽しめる。列をスムーズに流すためのスペース確保。 ○見なくても楽しめる展示がいい。内容を事前に配布して見れば、聞こえなくても楽しめる展示ができる。随って楽しめる展示がいい。 <今後の方針> ○展示設計、運営計画で検討を進める。	<b>7. サイン</b> <主なご意見> ○どこにどのようなサイン、視覚的にわかるように。 ○サインの配置はスムーズな移動につながる。サインは場所により異なる。 <今後の方針> ○建築実施設計、展示設計、運営計画で検討を進める。
<b>4. 来賓者への対応</b> <主なご意見> ○事前にホームページやパンフレットなどでパビリオンの内容や音楽・音響の有無、光・音・匂いなどの情報があると手厚くてよい。 ○関係者間の連携強化など、いろいろな情報をリアルタイムで共有できるとよい。 ○モニター案内だけでなく多言語の案内があるといい。 ○行列を想定して、高齢者や障がい者の優先通路の確保や、座席の確保が重要。 <今後の方針> ○建築実施設計、展示設計、運営計画で検討を進める。	<b>8. 災害時対応</b> <主なご意見> ○避難経路を具体的に示してほしい。また視覚的にわかりやすくしてほしい。 <今後の方針> ○建築実施設計、展示設計、運営計画で検討を進める。
<b>9. スタッフの職場環境</b> <主なご意見> ○東京ディズニーランドは知的障がい者の雇用が進んでいる。 <今後の方針> ○運営計画で検討を進める。	<b>9. スタッフの職場環境</b> <主なご意見> ○スタッフの配置やサインの付加を。サインの配置を事前に配布してもらえると手厚くて、ありがたい。 ○便所の種類など、機能面に関して多数の意見あり。モックアップ検証。 ○便所の取扱い・掃除は様々なで整理検証を、他、設備に対して多数の意見あり。 <今後の方針> ○建築実施設計、展示設計、運営計画で検討を進める。 ○メーカー等と話し、モックアップ検証を行う。

取組項目とスケジュール

	2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度	
	4/6	7/9	10/12	1/3	4/6	7/9	10/12	1/3	4/6	7/9
建築	基本設計		実施設計		建築工事					
	ヒアリングモックアップ検証 「トイレ」 「サイン」 「来賓者の対応」		現地検証							
展示・運営	運営計画		展示設計		制作・展示工事					
	ワークショップ・ヒアリング 「モビリティ」 「来賓者の対応」		モックアップ検証 「モビリティ」 「来賓者の対応」		運営計画					

【建築】  
2022年6月から実施設計(詳細設計)に着手。詳細設計の進捗に応じて、案の提示やモックアップ検証等を行う。  
建築工事に、安全に配慮したうえで、現地での検証を行う。

【展示・運営】  
設計計画の進捗に応じて、ワークショップ・ヒアリングを行う。  
制作・工事中に、安全に配慮したうえで、モックアップ検証や現地検証・運営訓練を行う。  
会期中に、運営の検証を行い、会期後は全体をまとめたものを行う。

主な意見と今後の方針（資料の掲載文）

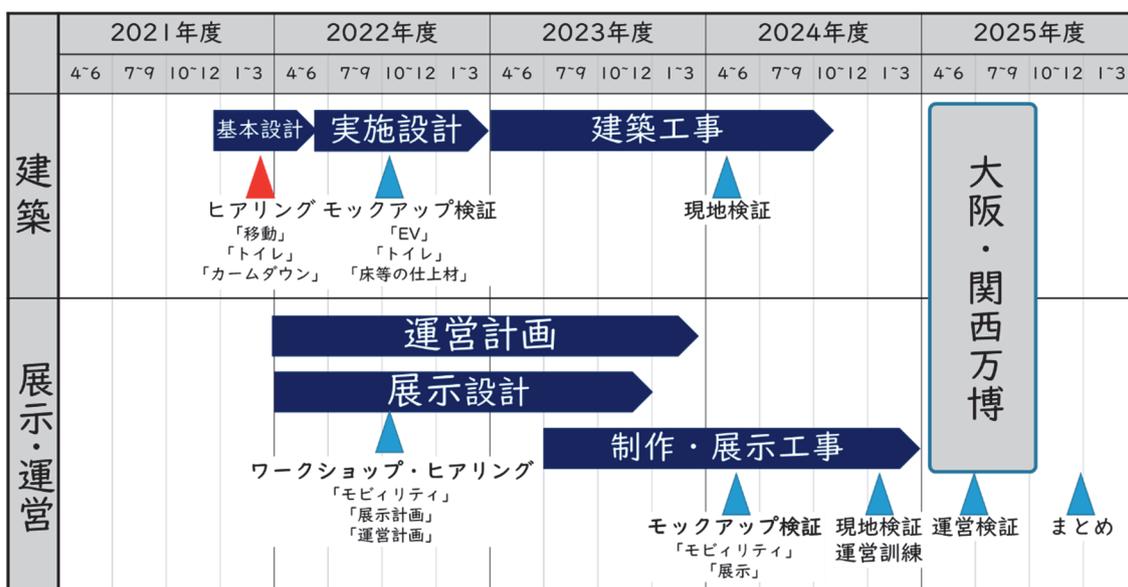
項目	主な意見	今後の方針
1. 方向性・進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・万博会場全体での統一化は今までなかった試みなので、2050年に向けて万博から発信してほしい</li> <li>・後から特別対策が必要とならないようにモックアップをしてほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博覧会協会と情報共有・連携し、モデルとなるパビリオンをめざす</li> <li>・製作や工事の前に、可能な限りモックアップによる検証や現地確認等を行う</li> </ul>
2. ルート・移動手段	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スロープが主動線なら勾配はゆるく。1/20勾配は良いが、しんどい人もいることを知ってほしい</li> <li>・スロープに展示がないとただの通路で長く感じる</li> <li>・途中で休憩できるスペースやエスケープゾーンがあると良い</li> <li>・エレベーター使用のルート設定ならエレベーターは大きい方が良い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手すり等の詳細や休憩・待合スペースの設定は、建築実施設計で検討を進める</li> </ul>
3. 展示	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モビリティは車いすのまま、またグループで楽しめるようにしてほしい</li> <li>・読む・聞くことに時間がかかる。列を乱さずに展示を楽しめるスペースを確保してほしい</li> <li>・見えなくても楽しめる展示は良い。音声を振動や光に変えて演出すれば、聞こえなくても感じる事ができる。触って楽しめる展示が良い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展示設計、運営計画で検討を進める</li> </ul>
4. 来館者への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前にホームページやパンフレット等でパビリオンの内容や音声案内の有無、光・音・匂い等の情報がわかると予習できて良い</li> <li>・混雑状況や展示説明等いろんな情報をアプリで取得できたら良い</li> <li>・モニター案内に文字だけでなく手話通訳の案内があると良い</li> <li>・行列を想定して、高齢者や障がい者の優先時間の設定や、ひさし等の暑さ対策が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建築実施設計、展示設計、運営計画で検討を進める</li> </ul>
5. トイレ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見えにくい障がいの人でも堂々と利用できるよう、配置やサインの仕組みを考えてほしい</li> <li>・トイレの配置図を事前に配布してもらえると予習できて、ありがたい</li> <li>・便房の種類等の機能分散に関して多数の意見あり。モックアップ検証してほしい</li> <li>・便房の扉の使い勝手は様々なので整理検証をすべき。他、設備に対して多数の意見あり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建築実施設計、運営計画で検討を進める</li> <li>・メーカー等と協力し、モックアップ検証を行う</li> </ul>
6. カームダウン・クールダウン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各階に1カ所配置は妥当。休憩室は別に確保。内装・設備への多数の具体的意見あり</li> <li>・事前にカームダウン・クールダウンがあることを周知。来館前に予習しておきたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内装仕上、設備、備品、休憩・待合スペース等、建築実施設計で検討を進める</li> <li>・事前予習への対応やスタッフの付添い等運営計画で検討を進める</li> </ul>
7. サイン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どこに進めば良いか、視覚的にわかると良い</li> <li>・床材の違いはスムーズな移動につながる。点字ブロックは場所により危ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建築実施設計、展示設計、運営計画で検討を進める</li> </ul>
8. 災害時対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難経路を具体的に示してほしい。また視覚的にわかりやすくしてほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建築実施設計、展示設計、運営計画で検討を進める</li> </ul>
9. スタッフの職場環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京ディズニーランドは知的障がい者の雇用が進んでいる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営計画で検討を進める</li> </ul>

### 2.1.3 取組方針の確認

2022年6月15日ワークショップ(第2回)で、ヒアリングコメントのまとめ、主な意見と今後の方針及びスケジュールを説明し、共通認識を図った。

#### ○ 説明内容

- ・コメントのまとめ(18ページ参照)
- ・主な意見と今後の方針(19ページ参照)
- ・コメントも参考に、変更した平面プランを提示、展示ルートは2ルートを1ルート化
- ・以下の取組スケジュールで、建築だけでなく、楽しめる展示や安心安全な運営、会期中の検証、会期後の発信までパビリオン全体で取り組む



- ・2022年6月から建築実施設計(詳細設計)に着手。詳細設計の進捗に応じて、案の提示やモックアップ検証等を行う。
- ・建築工事中に、安全に配慮したうえで、現地での検証を行う。
- ・展示設計計画の進捗に応じて、ワークショップ・ヒアリングを行う。
- ・展示制作・工事中に安全に配慮したうえで、モックアップ検証や現地検証・運営訓練を行う。
- ・会期中に、運営の検証を行い、会期後は全体を通じたまとめを行う。

## 2.2 みんなトイレ

トイレのユニバーサルデザインについて検討するにあたり、博覧会協会のUDガイドラインに示されたトイレの器具や設備の位置を確認し検証するのではなく、計画段階からUD推進チームでトイレのお困りごとを共有し、コンセプトとプランを考え、未来社会の実験場として「みんなが自由に選んで自然に使える、既成概念を変えるトイレ」の実現にチャレンジすることとした。

### 2.2.1 みんなでトイレプラン作成チャレンジ

2022年8月29日ワークショップ(第3回)「みんなでトイレプラン作成チャレンジ」に先立ち、8月25日にオンラインで進め方等を確認した。進め方として、ワークショップでの班には作り手企業や業務受託者も参加し、課題を共有し、丁寧な対話を重ねながらトイレのプランを考えていくこと等を伝えた。また、3月のヒアリングを踏まえ、トイレのコンセプトを以下として、トイレプランの作成にチャレンジすることを確認した。

- **コンセプト** 『誰もが使いやすい、ミライのトイレ』をめざし、「トイレの既成概念を変える、チャレンジングで心に響くトイレ」「みんなが自然に使える、壁・境界やバリアのないトイレ」「人の気持ちに寄り添った案内と設備を備えたストレスフリーのトイレ」

8月29日ワークショップでは、まず、作り手企業のショールームにおいて、大便器ブース等のトイレの大きさを確認しながら、それぞれのお困りごとを共有した。例えば、車いす使用者の方それぞれに、お困りごとが違うことや、まわりには気づかれにくいお困りごとがあること等を知ることができた。



ショールームでの確認の様子

次に、当事者が3班に分かれ、これまでの経験や日頃感じていること等を意見交換しながら、トイレプラン案を作成した。ワークショップでは、お困りごとの違いにより意見が分かれる場面もあったが、どうすれば解決できるのか悩みながらも、対話を進め、想いをプランに反映した。



トイレプラン作成チャレンジの様子

また、トイレプランの作成を円滑に進めるため、厚みのあるボードで作ったトイレブースのパーツを使ってレイアウトを検討する「福笑い方式」の模型や手話通訳者のサポートを準備した結果、聴覚障がい者や視覚障がい者、細かい作業が苦手な方もプラン案の作成に参加することができた。



福笑い方式の模型

最後に、各班からプラン案の特徴やプランづくりで浮かび上がった課題等を発表した。

各班のプランは、以下のとおり配慮の視点とゾーン構成の異なるチャレンジングなプランだった。

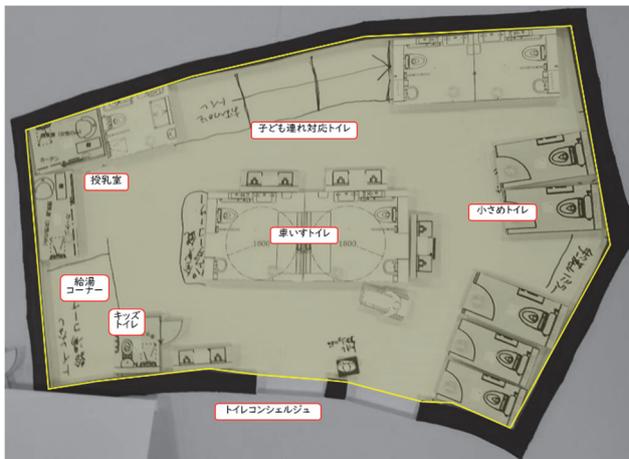
A班 LGBTQ+や異性介護を必要とする方にも使いやすいようにオールジェンダートイレ

B班 男女共用トイレに抵抗のある人もいるので男女共用と男女別ゾーンを分け、その中央に共用の手洗いとキッズコーナーを設置

C班 多様な人が使いやすいように入口は一つ

### <A班のトイレプラン>

- ✓ 介護、介助、性的少数者等のことを配慮したオールジェンダートイレ
- ✓ 全部個室で小便器なし（視覚障がい者もどこに入ってもOKとなる）

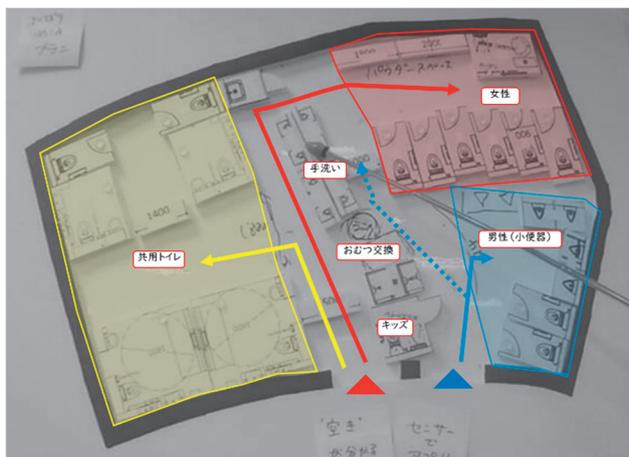


A班のトイレプラン

- ・視覚障がい者はトイレの空きは探すしかない。触知図は動線等の線種が多くわかりにくいいため、あまり触ることはない。→入口に案内をサポートするコンシェルジュを配置する。
- ・視覚障がい者は反時計回りで壁沿いにトイレブース、手洗いが順番にあるとわかりやすい。
- ・車いすトイレやキッズトイレ・授乳室は入口に近いほうが良い。
- ・視覚障がい者にとっては小さめのトイレが使いやすい。

### <B班のトイレプラン>

- ✓ 男女共用エリアと男女別エリアで構成。手洗いとキッズ関係は中央に配置
- ✓ 小便器は効率化のため設置。女性や宗教的な問題でオールジェンダーに抵抗がある人もいる

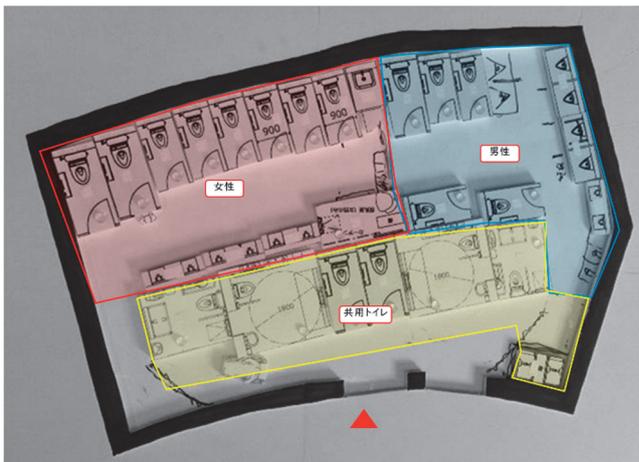


B班のトイレプラン

- ・アプリ等で空き情報が事前に知れるように。
- ・キッズトイレの出入口の向きを車いす使用者の通路と重ならないよう配慮する。
- ・おむつ交換やミルク作りのスペースは中央に設置し誰でも使用できるようにする。
- ・授乳室は女性が使用のため女性区画に設置する。

## <C班のトイレプラン>

- ✓ 男女共用エリアと男女別エリアで構成。入口近くに男女共用、奥に男女別を配置
- ✓ オールジェンダーはまだ抵抗がある人が多いので男女別も残したほうが良い



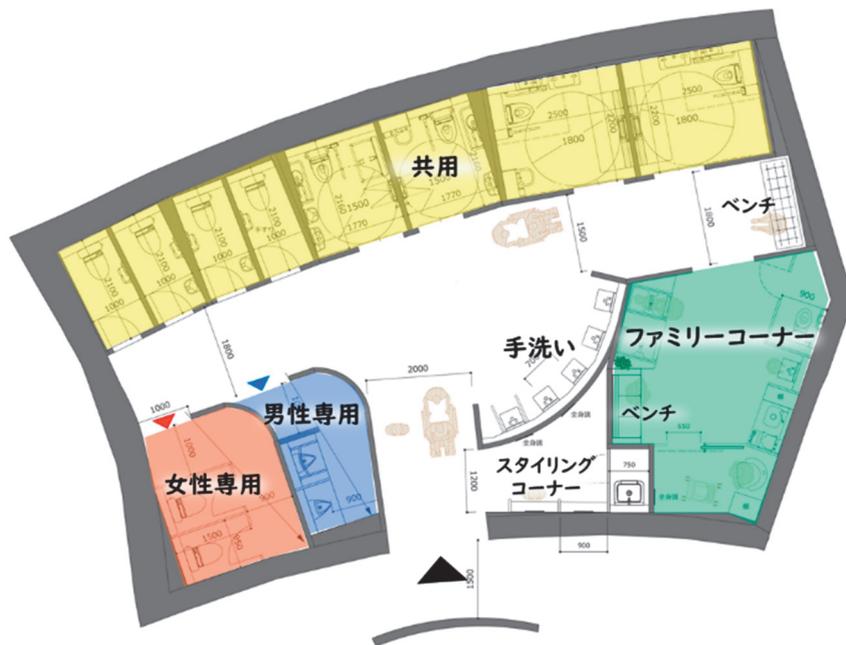
C班のトイレプラン

- ・多様な人が使用しやすいよう入口はみんな同じ。ただし視覚障がい者へのわかりやすさに配慮が必要。
- ・LGBTQ+の方への配慮として共用部には手洗いを設置しないほうが良い。
- ・混雑緩和のため小便器は必要。
- ・プライバシーの観点から小便器には間仕切り
- ・キッズトイレは必要だが一人では使用しないので大型トイレブースに機能を入れる。

## <各班のプランを元に作成したトイレプラン案>

2023年1月30日ワークショップ(第4回)で、3つの班のトイレプランに込められた思いをもとに事務局と作り手企業で作成したコンセプトとプラン案を示した。

プラン案は、トイレの既成概念を変えるミライ社会の実験場として、トイレに対する「意識変革」のきっかけになればという思いをコンセプトとし、誰もが分け隔てなく使えて、使いやすい「トイレ」となるよう機能分散した男女共用トイレを基本とした。また、どうしても男女別でないと使いづらい人のために、男女各専用スペースも機能として選択できるようにした。さらに、多様なニーズに対応するためのファミリーコーナーやスタイリングコーナー等を設けた。スタイリングコーナーの使い方や設置意図の質問があり、回答したが、以降の検討において、動線の課題に対応するため設けなかった。



事務局から示したトイレプラン案

## 2.2.2 並び方の確認等、運営に向けた検討

「みんなでトイレプラン作成チャレンジ」で作成したプラン案の課題として、「機能分散しているトイレにスムーズにたどり着けるか(混雑時の並び方含む)」「意識を変えることができるか」を設定し、どのような案内があれば良いか、2023年10月24日ワークショップ(第6回)及び第8回から第11回まで、計5回のワークショップで検討した。

2023年10月24日ワークショップ(第6回)では、今後の検討に向けて、事務局から「機能分散したブース」の課題と完成がイメージできる内装等の設計を説明し、作り手企業2者から手洗い器と満空表示案内の概要を説明し、その後にディスカッションした。意見として、「手すりが左右どちらについているか表示が必要」「トイレに待ち合わせをするスペースがあると良い」「トイレブースの鍵は形や大きさによって操作しづらいことがある」「手洗いは車いすやバギーの方も使えるようにしてほしい」等、今後の検討に向けて多くのアイデアが出された。

2024年2月29日ワークショップ(第8回)では、原寸大の平面図を描いたシート(以下、「原寸大図面」という。)を床に敷いて、「機能分散したトイレブースをどのように選ぶのか」、「混雑時の並び方や空いたトイレブースに自分が必要な機能がない場合にどうするか」といった課題を検証した。

はじめに、2つの課題について3班に分かれて意見交換し、各班で検討した内容を発表した。



班に分かれて意見交換している様子



班に分かれて意見交換している様子

次に、原寸大図面の上で、並び方やサインの位置等を検討した。



原寸大図面で並び方を確認している様子

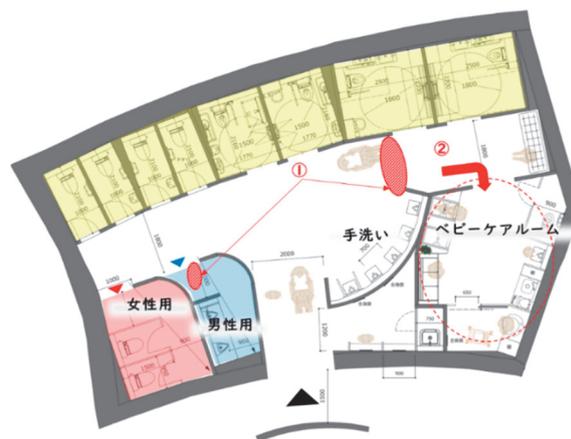


原寸大図面で通路の幅を確認している様子

実際に並んでみると、課題に対応するためには、案内表示だけではなく、利用者に当事者のお困りごとを知ってもらうことや、みんなトイレのコンセプトをしっかりと伝えることが大切だと気づいた。そうす

ることで、トイレの列に並んだ人がお互いにゆずり合うという声掛けの輪が広がるだろうという考えで一致した。そこで、トイレ入口へのコンセプトボードの設置について事務局で検討することとした。

また、動線について「出入口や幅の狭い所」「ベビーケアルームの入口が遠い」という使いにくさに気づいたことから、事務局と業務受託者として変更可能か検討することとした。後日の検討により、出入口の幅及びベビーケアルームの入口を変更した。



動線の使いにくさがあった位置

## ○ トイレの名称の検討

原寸大図面によるトイレプランの検証後、トイレの名称について、3班に分かれて検討した。事前にメールでメンバーから提出された 25個の名称案をもとに、各班で名称について意見交換した。各班で絞り込んだ以下の3つの名称案をベースに、事務局が調整し決定することとなった。

### <各班の名称案>

#### みんなトイレ

みんなで、多様な人たち誰もが利用しやすいトイレになるように考えた。英訳は「Inclusive Toilet」

#### あなたのトイレ

一人一人を大切に思い、「トイレがあなたを待っている」「あなたに合ったトイレ」という気持ちを伝える

#### 考えるトイレ

利用者がこのトイレの利用をきっかけに、みんなが多様な人のことを考えられるようなミライという気持ちを込めた

事務局で調整した結果、「すべての利用者(みんな)が利用しやすいトイレ」、「誰もが特別感なく、選択し、自由に使えるトイレ」、「トイレに潜在する“困りごと”を、みんなが感じ、共有し、考えるきっかけになるトイレ」「ミライのトイレを体験、体感できるスポットに」という想いを込めて、「みんなトイレ」(英語表記は Inclusive Toilet)に決定した。

## ○ 各種案内サインの検討

2024年5月28日ワークショップ(第9回)では、原寸大図面検証を踏まえて検討した並び方の考え方を事務局から提示した。また、入口サイン、コンセプトボード、触知図イメージ、ピクトサインの種類や位置及びトイレの満空情報の案内の案を説明した。その後3班に分かれ、ピクトサインの種類やコンセプトボードに掲載する情報について意見交換した。



班ごとのワークショップの様子